令和６年度　第２号

ひとの
つながり
を大切に

「ひと・つな」だより

～三重県に生まれ育つすべての子どもに途切れのない支援を～

子ども心身発達医療センターでは、2024 年度より児童精神科における初診受付方法の変更を行いました。医療を限りある資源と捉え、より医療の必要性と緊急性が高いと考えられるケースを優先的にセンター受診へつなげる仕組みとしました。変更のポイントは、①予約方法を電話予約から原則電子申請へ、②1 年分の予約受付から 3 カ月毎年 4 回の受付へ、③受診決定を予約先着順から受診希望者全ケースの申し込み内容を確認し受診調整会議で受診者を決定する、といったものです。

〈初診予約受付方法変更後の地域での支援について〉

2024 年 12 月までの傾向として、全受診者中未就学児が占める割合は、昨年度までの約 30%から約 10%まで減少しました。また、主訴の内訳としては、発達相談や就学後の学習困難のみでの受診者数が減少していることが明らかとなりました。

そうした中、2024 年 12 月末に市町担当窓口に実施したアンケート調査の結果では、初診方法変更以後、地域での発達障がい支援の対応について、「対応しやすい」「少し対応しやすい」が 12%、「変化なし」が 73%との回答が得られました。「対応しやすい」と回答された内容は、“緊急性が高いケースがタイムリーに受診に繋がりやすくなった”といったものが中心でした。また、多くの市町が「変化なし」と回答されたことから、センターがより医療度の高いケースの対応に舵を切った中でも、想定以上に地域の混乱が生じていないことがうかがわれます。

つまり、これまでの各市町の取り組みにより、発達相談や学習困難等の相談については、地域での対応が十分可能となっている、これは、みえ発達障がい支援システムアドバイザーを中心とした、三重県の途切れのない支援システムが機能している結果と言っても良いのではないかと考えています。一方で、「対応しにくい」15%と回答された内容は、“地域で連携できる医療機関が少ない”“医療受診を機に地域での支援を開始する”など、市町ごとに抱えてきたこれまでの課題がより浮き彫りになっていると考えられます。

今後も、各市町がこれまで以上に地域での連携を見直すと共に、地域で生きる全ての子どもの健やかな育ちを支えられるよう、さらに取り組みを進めていくことが求められています。

〈CLM 方式の運用について〉

11 月末に実施された「CLM と個別の指導計画」実践報告会では、県内から亀山市、尾鷲市、県外から岐阜県高山市による報告が行われました。CLM が子どもを支援するだけでなく、その考え方が、子どもと支援者が育つ学級づくり・地域づくりの基盤となることが定着しており、さらには、既存の発達理論と組み合わせることで、より的確な支援が可能となること、市町全体における 5 歳児健診に向けた運用の可能性、園から就学への接続期への活用といった、市町の実状に応じより発展的な運用が可能となる報告がされました。CLM 方式が、より深まり発展していく転換点に差し掛かっていることを強く感じました。

これからも皆さまの取り組みに、強く期待すると共に、センターは「子ども一人ひとりが、その子らしく豊かな人生を送るために」という理念のもと、センター機能をより発揮できるよう努めていきたいと考えております。

令和７年１月　三重県立子ども心身発達医療センター長　中西　大介

令和６年度「CLM と個別の指導計画」実践報告会

11 月 30 日フレンテみえにて『令和６年度「CLM と個別の指導計画」実践報告会』が開催されました。当日は県内外より約 300 名の参加者が集い、「事業報告：途切れのない発達支援」、「講演：CLM 方式によるクラス全体の育ちの方向性」に続き、３市から「実践報告」が行われました。熱を帯びた質疑応答も含め、充実した研修会となりました。

亀山市：担任から離れられないＡくんへの支援
～あそびを通して担任から友だちへ～

担任が安心・安全の基地となることで友だちの輪に入っていくことができた実践

報告を終えて　～亀山市～

「CLM と個別の指導計画」に取り組み、子どもの発達を捉えた計画の重要性を再認識しました。個々の発達の段階やマズローの欲求５段階説に沿って、子どもが到達していない段階における経験を意図的に積み重ねていく支援が大切であると感じました。今後も「CLM と個別の指導計画」を活用し、一人一人の子どもたちの発達を見極め、園の先生方とともに、子どもたちの成長をサポートしていきたいと思います。

報告を聞いて　～アンケートより～

・担任との関係づくりに取り組むところから友だちとの関係性への拡がりに自然と持っていったところが素晴らしいと思いました。
・友達との関わり方がわからない、担任から離れていけないといった課題は、低年齢で発見できるので自分も積極的に取り組みたい。
・「ＣＬＭ」と「マズロー」との共通性を再確認した。

マズローの欲求５段階

【意見・要望・感想】アンケートより

・オープンして間もない事業所なので沢山の事例や意見が聞け、今後の支援に繋げたいと思った。堅苦しくなく温かい雰囲気の研修会でとてもよかった。
・クラス全体の姿から支援方法を考えて実践に繋げた経過や結果を聞き、掘り下げて考える大切さに気づけた。
・担任や加配だけが悩み考えるのではなく、「CLM と個別の指導計画」を通して園長、主任、ＡＤ等みんなで子どもの育ちを考え取り組むことの大事さに気づけた。多くの目で子どもの育ちを保障していきたいと思う。
・子ども達が楽しいと思え、主体的な活動へと導ける支援を身に着けたいと思う。支援の仕方ひとつで二次障害にも個性にもなり得ることを知り、大切な乳幼児期・児童期に関わる身として気持ちが引き締まった。

尾鷲市：「また次がんばる！」と再チャレンジできるようになったＡくん
～自立心・協同性を育むクラス作り～

丁寧な要因分析から、子どもたち一人一人が主役になった保育の実践

報告を終えて　～尾鷲市～

今回の事例では、集団活動に参加できないＡくんを中心に、クラス全員の個性や発達を理解して、子どもたちが主体となって活動できる保育の実践に取り組みました。この取り組みが、子どもたちの自信につながり、クラスの一員として自主的に活動できることが増え、自主性、協同性が育ちました。

今回の学びを活かし、今後もＣＬＭを活用して子どもの発達を理解し、クラスみんなで育ち合う支援の実践に取り組んでいきます。

報告を聞いて　～アンケートより～

- 子どもの行動の意味を考え、背後にある気持ちに寄り添い、信頼関係を築いていくことの大切さを改めて感じることができた。
- 子どもたちに役割を持たせることで遊びの主役にもっていく取り組み。Ａくんとしっかり向き合った担任の先生の姿が素敵でした。
- 年長児は就学に繋げる年で課題・悩みも多く、参考にできる所が多かった。

高山市：ことば集めで語彙数を増やす
～学習の基礎の力を高める支援～

学ぶ意欲を育む接続期の実践

報告を終えて　～高山市～

小学校１年生の教育は、その後長く続く学校生活に大きく影響をすると思います。その大切な１年生期に、どの子にも学ぶ意欲を失わせず学校生活の中で生きいきと学べる支援を行いたいと願い「CLM と個別の指導計画」を実践しました。

昨年度は、Ａさんとクラス全員に、学校生活がスムーズにできる支援や、言葉の理解を高めるよう語彙数を増やす支援を行いました。要因に沿った支援をスモールステップで行ったことで、学習や生活にさらに前向きに取り組めるようになり、CLM の効果を実感しました。

今後は、CLM の実践と共に、さらに園と連携して接続期カリキュラムの改善を行っていきたいと考えています。

報告を聞いて　～アンケートより～

- クラス全体で楽しく学習に取り組み、連帯感も強いと感じた。また、評価のポイントやステップ・アップの大切さも改めて学ぶことができた。
- 今回の実践報告を聞き、語彙力を増やす大切さを感じた。子どもの発達に合った「言葉あつめ」を、今後も取り入れていきたいと思います。
- 幼−保−小が連携する大切さを学べた。「やはりそうか」と思うことが多く、保育園でも語彙力を高める取り組みとして使えると思った。

クラスみんなで育ち合うＣＬＭ

声をかけあって集まり、ポーズをするあそび
フォーメーションゲーム

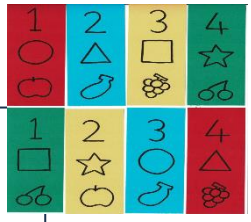
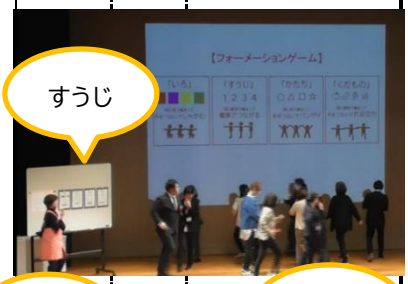
幼児期の終わりまでに育ってほしい 10の姿

- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 健康な心と体、協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え

名前：　Ａさん　（５歳児）

チェック項目 (13) 同じあそびしか行わずあそびが発展しない エピソード自由あそびの時、一人で、トランプや絵カードで遊んでいる	要因 ①友だちを誘ったり、誘われたりする経験が少ない

目標　フォーメーションゲームの時、同じもの同士で集まって、ポーズをすることができる

期間	具体的な指導方法		結果・評価
	＜クラス環境の整えとクラス全体の支援＞	＜個別の支援＞	月日 ○× 特記事項
○/○ (○) ～ ○/○ (○) ○回	【環境の整え】 ・あそび方表を掲示する ＜フォーメーションゲームのあそびかた＞ ① 「いろ」「すうじ」「かたち」「くだもの」が書かれたカードを １枚ずつ持つ ② 音楽がなっている間は歩く ③ 音楽が止まったら、先生が言ったフォーメーション(同じ色・同じ数字・同じ形・同じ果物)で集まって、決められたポーズをする 「いろ」 同じ色で集まって 手をつないでしゃがむ 「すうじ」 1 2 3 4 同じ数字で集まって 電車でつながる 「かたち」 ○ △ □ ☆ 同じ形で集まって 手をつないでバンザイ 「くだもの」 同じ果物で集まって 手をつないで片足立ち 【フォーメーションゲーム】 ・担任と２～３名の先生でロールプレイ（見本）を見せながら、遊び方を説明する ・「赤の人？」「１の人？」と声をかけ合って、同じものの友だちを探すとよいことを伝える ・カードを配り、テンポよく進める ・フォーメーションとポーズを覚えるまでは、フォーメーションを伝えた後、ポーズを伝える（例：「いろ」「しゃがむよ」） ・声をかけ合って集まれたことをほめる	 ・声をかけ合って集まれたことをほめる	 すうじ 1、1 3、3 電車でつながるよ できた！

令和７年度の予定

４月１９日（土）	「CLM と個別の指導計画」スキルアップ研修会（対象：アドバイザー及び CLM コーチ）
５月１０日（土） ５月２５日（日）	「CLM と個別の指導計画」初級研修会（対象：保健師、保育士、教員、関係行政職員）
７月２９日（火）	子ども心身発達医療センター「ここ・から」研修会（対象：教育・医療・保健・福祉関係者、県民）
１１月２９日（土）	みえ発達障がい支援システムアドバイザー研修（通称ミニ学会）（対象：アドバイザー）
１２月２０日（土）	「CLM と個別の指導計画」実践報告会（対象：保健師、保育士、教員、関係行政職員）
２月１６日（月）	みえ発達障がい支援システムアドバイザー研修者研修成果報告会（対象：関係行政職員）

令和7年(2025 年) 2月7日
＜発行＞三重県立子ども心身発達医療センター　発達総合支援部　医療連携課
〒514-0125　三重県津市大里窪田町 340 番 5　電話番号　059-253-2000(代)
MAIL：hattatsuc@pref.mie.lg.jp URL：http//www.pref.mie.lg.jp/CHILDC/